

HP 自己診断

ソフトウェアバージョン: 10.10

Windows[®] およびLinux[®] オペレーティングシステム

オンラインヘルプ

ドキュメントリリース日: 2015年11月
ソフトウェアリリース日: 2015年11月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2009-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® はAdobe Systems Incorporatedの商標です。

Microsoft® およびWindows® はMicrosoft Corporationの米国内での登録商標です。

UNIX® はThe Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

または、[HPソフトウェアサポート] ページ上部にある [登録] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトへのアクセス: <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

このPDF版オンラインヘルプについて

本ドキュメントはPDF版のオンラインヘルプです。このPDFは、ヘルプ情報から複数のトピックを簡単に印刷したり、オンラインヘルプをPDF形式で閲覧できるようにするために提供されています。このコンテンツは本来、オンラインヘルプとしてWebブラウザで閲覧することを想定して作成されているため、トピックによっては正しいフォーマットで表示されない場合があります。また、インタラクティブトピックの一部はこのPDF版では提供されません。これらのトピックは、オンラインヘルプから正しく印刷することができます。

目次

自己診断レポートについて	9
NPSおよび拡張パックのヘルスの監視	9
メトリックス	10
カレンダーレポート	11
チャート詳細レポート	11
ヒートチャートレポート	12
管理対象インベントリレポート	12
最も変化したレポート	12
ピーク期間レポート	13
上位Nレポート	13
例	13
上位N頻度分布レポート	14
上位Nチャートレポート	14
上位Nテーブルレポート	15
上位10タスク期間レポート	15
ベースラインスリープレポート	16
レポートレットについて	16
範囲付きベースラインメトリックスナップショット	17
ベースラインスリーブチャート	17
ベースラインスパーク線	17
範囲付きベースラインスパーク線	17
カレンダー	18
ゲージ	18
ヒートチャート	19
メトリックスナップショット	19
最も変化した	20
マルチメトリックチャート	21
単純な棒グラフ	22
単純な棒グラフと折れ線グラフ	22
単純なグラフ	23
単純なテーブル	24
スパーク線	25
上位Nチャート	25
上位N折れ線グラフ	26
上位N積み上げグラフ	27

上位Nテーブル	27
棒グラフ付き上位Nテーブル	28
用語集	30

自己診断レポートについて

自己診断拡張パックでは、NPS内で機能するプロセスのヘルスを監視します。

レポートにより、次の作業を実行できます。

- プロセスがどのように動作しているかを調査する。
- NPSのパフォーマンスを測定しているメトリックが許容(正常)範囲内にあるかどうかを分析する。
- NPSプロセスの選択時間範囲におけるパフォーマンスを比較する。
- NPSプロセスの最も負荷の高い時間におけるパフォーマンスを分析する。

NPSおよび拡張パックのヘルスの監視

自己診断拡張パックによって生成されたレポートを使用して、NPSおよびNPSシステム上の拡張パックの中核機能を形成するプロセスのヘルスとパフォーマンスを監視できます。

自己診断拡張パックは、NPSシステム上の各プロセスをタスクとして識別します。各タスクは、関連するタスクタイプ、タスクカテゴリ、拡張パック、およびサーバーホスト名によってグループ化されます。

サーバーホスト名

分散環境にNPSをインストールすると、特定のサーバー上でNPSによって実行されているタスクをモニターするためにそのサーバーのホスト名を選択することができます。

タスクカテゴリ

- ETL
- レポートの生成

タスクタイプ

ETL:

- build_groupcache_from_db
- build_topcache_from_db
- checkAggregates
- process_group_dump_file
- process_metricsfiles
- process_metricsfiles->バルクロードアーカイブテーブル
- process_metricsfiles->バルクロードライブテーブル
- process_metricsfiles->前処理

- process_retention->集約テーブル
- process_retention->ライブテーブル
- process_retention->アーカイブテーブル
- process_retention->timeDimensionテーブル
- process_summary->サマリーの子プロセス
- process_summary->サマリーの親プロセス
- process_topodump_file

レポートの生成:

- カレンダー
- チャートの詳細
- ダッシュボード
- ヘッドライン
- ヒートチャート
- 最も変化した
- 管理対象インベントリ
- 上位N

タスク

NPSは、NPSシステム上で動作するタスクとして必須プロセスを監視および管理します。プロセスはすべて、システム上のさまざまな拡張パックによって導入されます。プロセス名の形式は次のとおりです。

<拡張パック名>.<タスクカテゴリ>.<タスクタイプ>

メトリックス

次のメトリックスに対してレポートを生成できます。

- プロセス時間 (タスク完了までの所要時間 (秒))
- 行数 (ETLバルクロードなどのタスクを選択するときに適用)
- 使用可能なシステムメモリー: 空きメモリー容量 (Linuxでは、空きメモリーとキャッシュメモリー) を表示します。システムのメモリー使用率が増大し、使用可能なメモリー容量が減少しているかどうかを確認できます。使用可能なメモリー領域が少なくなると、システムパフォーマンスが低下する可能性があります。
- 使用可能なディスク領域: データディレクトリファイルシステム内のディスク使用率を監視できます。時間の経過に伴う使用可能なディスク領域のトレンドをプロットすることにより、ディスク使用率が安定状態に到達しているのか、ディスク容量が不足する状態に近づいているのかを判定できます。
- バックログメトリックファイル: NPS ETLコンポーネントによる処理を待っている着信メトリックファイルの数を表示します。
- コンテンツストアサイズ: BIサーバーデータベースで利用可能な空き容量。
- データベースサイズ (空き): NPSデータベースで利用可能な空き容量。

- データベースサイズ(予約済み):自動割り当て用に予約された、NPSデータベースで利用可能な空き容量。
- データベースサイズ(使用済み):NPSデータベースによって使用されている合計ディスク容量。

カレンダーレポート

カレンダーレポートでは、2つのメトリックの毎時の統計情報を複数の日付にまたがる1つの拡張されたグラフとして表示します。

このレポートは、次の目的で使用できます。

- 長期間にわたる段階的なトレンドを観察する
- 孤立したスパイクを観察する
- 異常な状態が正常に戻ったことを確認する
- 比較する

このレポートにより、次の情報も識別できます。

- 曜日パターン
- 時間パターン

チャート詳細レポート

チャート詳細レポートでは、パフォーマンスに関する履歴データに基づいて、NPSプロセスのヘルスとパフォーマンスのトレンド分析を実行できます。

このレポートでは、各時間単位について、選択したメトリックスの比較分析が表示されます。たとえば、過去1週間のミリ秒ごとの平均プロセス時間の変動によってしきい値の例外率の平均がどのように影響を受けるかを比較する場合、選択したノードグループの週次パフォーマンス診断レポートを生成できます。

複数のタスクタイプ、タスク名、拡張パックなどを選択できます。

このレポートを使用して、次のことができます。

- 複数のタスクタイプ、タスク名、拡張パックなどに対して、ネットワークのヘルスとパフォーマンスのトレンドを1つの時間単位に基づいて分析する。各時間単位は、表示粒度と呼ばれます。各表示粒度の尺度は次のとおりです。
 - 毎時レポートでの5分間
 - 日次レポートでの1時間
 - 週次レポートでの1日
 - 月次レポートでの1日
- NPSプロセスのヘルスとパフォーマンスにおける変動を識別する

- ヘルスとパフォーマンスに関する履歴データに基づいて、複数のタスクタイプ、タスク名、拡張パックなどのヘルスおよびパフォーマンスを比較する

グラフでは、選択した期間のメトリックを追跡します。デフォルトの設定は次のとおりです。

- Y1 メトリック = 処理時間 (秒) (平均)
- Y2 メトリック = 処理時間 (秒) (最小)

ヒートチャートレポート

ヒートチャートレポートは、1つのメトリックの毎時のパフォーマンスを追跡します。デフォルトのメトリックは処理時間 (秒) (平均) です。パフォーマンスはカラーコードされ、徐々に悪くなる状態を見分けることを簡単にし、正常なパフォーマンスと異常なパフォーマンスを簡単に区別することができます。

レポートの上部にある凡例は、正規化されたパフォーマンス値の範囲と特定の色の関係を示しています。その範囲内にある値はすべてその色が割り当てられます。凡例の下に、1日から31日までの月の各日が左から右にリストされます。レポートの下部片側に日の各時間が表示されます。テーブルの各セルはカラーコードされており、特定の値を示しています。セル上にマウスのポインターを移動させると、処理前のデータを表示できます。

管理対象インベントリレポート

管理対象インベントリレポートには、使用可能なトポロジ属性のリストが表示されます。使用可能な属性を使用して特定のデータに絞り込んで、レポートを作成できます。属性のリストがテーブル形式でレポートに表示されます。カウント列は、各属性のエントリー数を示します。

トポロジ項目拡張パックでは、カウント列はNPSシステムで使用可能な拡張パックの数を表します。

トポロジ項目タスクカテゴリでは、カウント列はNPSによって作成されたタスクカテゴリの数を表します。

最も変化したレポート

最も変化したレポートでは、2つの異なる (連続した) 期間のパフォーマンスを比較し、変化の大きさによってプロセスをランク付けします。ソート順序は「最も変化した」から「最も変化しなかった」です。

機能

レポートには、次の列がある1つのテーブルが含まれます。

- 前の期間のパフォーマンス
- 選択した期間のパフォーマンス
- 成長率 (パーセンテージの増加で表示)
- 変化

月を選択した場合、レポートは2つの月(選択した月とその前の月)を比較します。週を選択した場合は、レポートは2つの週(選択した週とその前の週)を比較します。

レポートでは1つのメトリックのデータのみを提供します。

ピーク期間レポート

ピーク期間レポートは、選択した時間範囲で最も負荷の高い時間におけるNPSプロセスのパフォーマンスをランク付けします。

このレポートを使用して、次のことができます。

- 選択したメトリックのピーク期間中のパフォーマンスと使用率を識別する。
- ピーク期間中にパフォーマンスのレベルが最も高かったNPSプロセスまたは最も低かったNPSプロセスを識別する。
- このレポートを使用して、複数のNPSプロセスのピーク期間中のパフォーマンスを比較する。

このレポートを1日に1度チェックして、特別な注意を要するNPSプロセスを確認します。

上位Nレポート

上位Nレポートでは、選択したメトリックによってNPSプロセスをランク付けします。このレポートを使用して、極端な状態で実行されたプロセスを見分けることができます。また、パフォーマンスのレベルが異常なプロセスの履歴データを分析することもできます。

次のトポロジフィルターを使用できます。

- 拡張パック
- タスクカテゴリ
- タスクタイプ
- タスク名
- サーバーホスト名

このレポートを使用して、次のことができます。

- Performance iSPIサーバーで実行している拡張パックとタスクのパフォーマンスをランク付けします。
- プロセスに関する継続的な問題の根本的な理由を検出します。複数のタスクのパフォーマンスを比較できます。

例

ネットワーク内の一部のプロセスのパフォーマンスが低いとします。最も長い処理時間を報告しているプロセスをグループ化して、最も処理時間の長いプロセスが1位にランクされるようにできます。

上位Nレポートオプション

次のオプションを利用できます。

- **上位/下位「N」**

選択したNPSプロセスに対して、上位または下位の5件、10件、25件、50件、100件、すべてを降順、すべてを昇順の中から、1つのランク付けを選択します。

- **メトリック**

レポート生成の対象とするメトリックを選択します。このメトリックは、レポートのランク付けに使用されます。

- **時系列チャートの表示**

表と一緒に詳細チャートを表示するには[はい]を選択します。チャートを非表示にして表のみを表示するには[いいえ]を選択します。作成した上位Nレポートには、選択した時間範囲におけるNPSプロセスのメトリック値がグラフ表示されます。

- **グループ化**

特定のパラメーターに基づいてレポートデータをグループ化できます。サブグループを追加するにはクリックします。

このレポートでは、選択した期間に対してメトリックタイプごとに最大6つのメトリックを追跡します。

このレポートでは、デフォルトでタスク名別にデータがグループ化されます。複数のグループ化属性を選択するには、を使用します。グループ化属性を削除するには、をクリックします。

このレポートを1日に1度チェックして、特別な注意を要する拡張パックまたはプロセスを確認します。

このレポートを1日を通して定期的にチェックし、どの拡張パックまたはプロセスが極端な状態で実行されていて特別な注意を要するか確認します。

上位N頻度分布レポート

上位N頻度分布レポートでは、選択したメトリックによってネットワーク要素がランク付けされ、選択した時間範囲における各収集サンプルのメトリック値の分布が示されます。

このレポートは、上位Nレポートの代わりに使用することができます。上位Nレポートで利用可能なすべての詳細を提供することに加えて、このレポートでは各**バケット**¹でメトリック値が費やした時間量を確認できます。

上位Nチャートレポート

上位Nチャートレポートでは、選択したメトリックによってNPSプロセスをランク付けします。

このレポートを使用して、次のことができます。

- 極端な状態で実行されたNPSプロセスを見分ける。
- パフォーマンス問題が発生しているNPSプロセスを検出する。

¹バケットは値の範囲を表します。上位N頻度分布レポートによって、メトリックシリーズに対してバケット0 (Bkt0) からバケット11 (Bkt11) までの12の異なるバケット (または値の範囲) を定義可能になります。各バケットは、(設定済みで変更不能の) カラーコードと関連付けられています。生成されたレポートは異なる値の範囲の分布を、バケットに関連付けられているカラーコードで表します。

上位Nチャートオプション

次のオプションを利用できます。

- 上位/下位N
- メトリック
- グループ化

このレポートは、選択した期間中の最大6つのメトリックを追跡したものです。

このレポートでは、デフォルトでタスクタイプ別にデータがグループ化されます。複数のグループ化属性を選択するには、を使用します。グループ化属性を削除するには、をクリックします。

このレポートを1日に1度チェックして、特別な注意を要するNPSプロセスを確認します。

上位Nテーブルレポート

このレポートでは、選択したメトリックによってネットワーク要素をランク付けします。上位Nレポートと異なり、このレポートは棒グラフや時系列グラフをまったく表示せず、「[その他](#)¹」グループも表示しません。大規模な環境においては、NPSは上位Nレポートよりも速く上位Nテーブルレポートを生成できます。上位N要素をできるだけ早く確認するには、上位Nレポートではなく上位Nテーブルレポートを使用してください。

このレポートを使用して、極端な状態で実行された要素を見分け、使用率のレベルが異常な要素の履歴データを分析します。次を実行できます。

- ヘルスまたはパフォーマンスに問題があるNPSプロセスを検出する。
- 特定の時間範囲におけるNPSプロセスの使用率を分析する。
- NPSプロセスで過剰使用または過小使用されているコンポーネントを検出する。
- 複数のNPSプロセスのパフォーマンスを比較する。

ヒント:

このレポートを1日に1度チェックして、特別な注意を要するNPSプロセスを確認します。

このレポートを1日を通してチェックし、どのNPSプロセスが極端な状態で実行されていて特別な注意を要するか確認します。

上位10タスク期間レポート

このレポートは、上位10件のETLプロセスおよびレポート生成プロセスを監視し、選択した時間範囲で各プロセスが要した時間を追跡したものです。

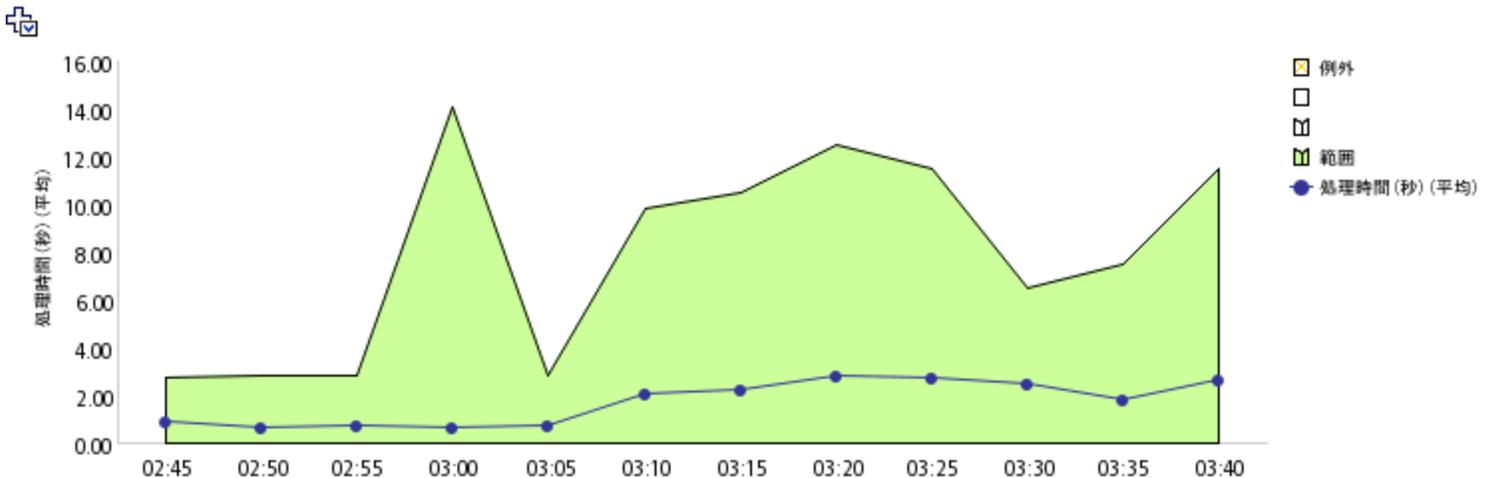
¹上位Nレポートで、レポートによってランク付けされていない要素はまとめてグループ化され、「その他」行で表示されます。

ベースラインスリーブレポート

ベースラインスリーブレポートは、処理時間(秒)メトリックの値がベースラインにどの程度近いかを分析します。つまり、このレポートによって、NPSが各タスクを完了するまでにかかった時間がどの程度であるかが確認できます。このレポートを使用するには、トポロジフィルターから特定のタスクを選択します。特定のタスクが選択されていない場合でも、レポートには集約された情報が表示されますが、NPS環境でのトラブルシューティングを効率的に行うためには、このレポート上でタスクを選択する必要があります。

処理時間(秒)メトリックの線グラフによって、NPSがタスクを完了するのににかかった合計時間が表示されます。また、ベースラインスリーブによってタスクを完了するための期間の標準的な範囲が示されます。

ベースラインスリーブレポート



注: このレポートには、ベースライン例外率に関する情報はまったく表示されません。レポートの [例外 (%)] 列に値は表示されません。

レポートレットについて

大規模な企業ネットワークでは、NNM iSPI Performance製品 (HP NNM iSPI Performance for Metrics、HP NNM iSPI Performance for Quality Assurance、およびHP NNM iSPI Performance for Traffic) によって大量のデータが作成され、カーディナリティが大きくなる場合があります。企業ネットワークの多くに、大量の一意のIPアドレス、送信元ノードと送信先ノード、仮想回線、インタフェース、およびコンポーネントがあり、それぞれが大量のデータを生成します。そのため、レポートの生成には時間がかかる場合があります。

レポートレットを使用すると、NNM iSPI Performanceダッシュボードを使用して大規模なレポートの簡易版を生成できます。

レポートレットを表示するには、以下の手順を実行します。

1. NPSホームページにログインします。
2. 左側のナビゲーションパネルで[ダッシュボードのレポートレット]を選択します。
3. 拡張パックおよびレポートレットを選択します。

レポートレットを使用してカスタムダッシュボードを作成することもできます(「BIサーバーポータルを使用したカスタムダッシュボードの作成」を参照)。

範囲付きベースラインメトリックスナップショット

選択した時間範囲について、処理時間メトリックの集約されたパフォーマンスを表示します。このレポートは、処理時間メトリックのパフォーマンス履歴を作成し、メトリックパフォーマンスが時間の経過とともにどのように変化したかを分析するのに役立ちます。

ベースラインスリーブチャート

このレポートレットは、処理時間メトリックのパフォーマンス値がしきい値レベルにどの程度近いかを分析します。レポートレットにより、メトリックのパフォーマンスがしきい値の上限または下限を超えそうな場合に検出可能になります。

ベースラインスパーク線

レポートレットは、選択した時間範囲における処理時間メトリック値の変化のトレンドを評価します。次の作業を実行できます。

- メトリックのパフォーマンスの変動を分析します。
- メトリックの期待される動作を再評価するかどうかを決定します。

範囲付きベースラインスパーク線

レポートレットは、選択した時間範囲における処理時間メトリック値の変化のトレンドを評価します。次の作業を実行できます。

- メトリックのパフォーマンスの変動を分析します。
- 現在のパフォーマンストレンドを正常な(期待される)パフォーマンス範囲と比較します。
- 過去1日のパフォーマンスをパーセンテージで測定します。

カレンダー

選択した**プライマリメトリック**¹と**セカンダリメトリック**²の比較調査が表示されます。

デフォルトの表示粒度は1時間に設定されています。このレポートレットの表示粒度は変更できません。

次の項目を監視できます。

- NPSプロセスによるシステムリソースの日次使用率
- 選択した時間範囲におけるNPSプロセスによるデータ処理量
- 選択した時間範囲におけるNPSプロセスのパフォーマンス

[オプションの設定/解除]をクリックすると[レポートオプション]ペインが表示されます。

[レポートオプション]ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を[検索]ボックスに入力します。

タグ³を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ]ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、Y1 軸のメトリックを選択する場合は[Y1 に送信]をクリックします。Y2 軸のメトリックを選択する場合は[Y2 に送信]をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには[説明の表示]をクリックします。

このレポートレットは2つのメトリックをサポートします。

ゲージ

選択した時点のメトリックを評価します。

次の作業を実行できます。

¹レポートを生成する対象の主要メトリックを選択できます。選択したプライマリメトリックは、レポートの左側のY軸上に表示されます。

²プライマリメトリックに重ね合わせるメトリックを選択できます。選択したセカンダリメトリックは、レポートの右側のY軸上に表示されます。

³タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

- 選択したメトリックの毎日のパフォーマンスを測定する。
- 異常または予期しないパフォーマンスレベルが発生した場合に検出する。

このレポートレットは1つのメトリックをサポートします。

ヒートチャート

選択したメトリックの選択時間範囲におけるパフォーマンスを等級付けします。

メトリックのパフォーマンスは、毎時の表示粒度に基づいて集約されます。

次の作業を実行できます。

- メトリックの変動によってNPSプロセスのパフォーマンスが受ける影響を確認する。
- 選択したメトリックの毎時のパフォーマンスを比較する。
- メトリック値の変動によりNPSプロセスのパフォーマンスが悪影響を受けた時間範囲を検出する。

[オプションの設定/解除]をクリックすると[レポートオプション]ペインが表示されます。

[レポートオプション]ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を[検索]ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ]ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信]をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには[説明の表示]をクリックします。

このレポートレットは1つのメトリックをサポートします。

メトリックスナップショット

選択した時間範囲のメトリックパフォーマンスを表示します。

次の作業を実行できます。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

- 選択したメトリックのパフォーマンス履歴を作成し、メトリックのパフォーマンスが時間の経過とともにどのように変化したかを分析する。このことは、メトリックのベースライン値を決定するときに役立ちます。
- 指定した時間範囲にわたる複数のメトリックのパフォーマンスを比較する。スナップショットレポートは1つのメトリックに対して生成できますが、さまざまなメトリックのスナップショットレポートを保存し、時間範囲にわたる各メトリックのパフォーマンスを比較できます。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットは1つのメトリックをサポートします。

最も変化した

メトリックの前日と今日のパフォーマンスを比較します。

毎日のメトリックの使用率を集約し、パフォーマンスを降順でランク付けします。

次の作業を実行できます。

- NPSプロセスのパフォーマンスの変動を測定する。
- 共通のパフォーマンスまたは使用率の問題が発生している上位NのNPSプロセスを検出する。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットは1つのメトリックをサポートします。

マルチメトリックチャート

選択したメトリックの選択時間範囲における使用率トレンドを分析します。

次の作業を実行できます。

- 表示粒度ごとに選択したメトリックの比較分析を実行する。デフォルトの表示粒度は1時間です。
- NPSプロセスパフォーマンスの向上および悪化の理由を分析する。
- NPSプロセスパフォーマンスに影響を与える継続的な問題を検出する。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ²を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、Y1 軸のメトリックを選択する場合は [Y1 に送信] をクリックします。Y2 軸のメトリックを選択する場合は [Y2 に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットは最大6つのメトリックをサポートします。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

²タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

単純な棒グラフ

2つのメトリックの選択時間範囲におけるパフォーマンスを比較します。

次の作業を実行できます。

- 複数のメトリックのパフォーマンストレンドを比較する。
- プライマリメトリックの値の増減に応じてセカンダリメトリックの値がどのように増減するかを分析する。

[オプションの設定/解除]をクリックすると[レポートオプション]ペインが表示されます。

[レポートオプション]ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を[検索]ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ]ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、Y1軸のメトリックを選択する場合は[Y1に送信]をクリックします。Y2軸のメトリックを選択する場合は[Y2に送信]をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには[説明の表示]をクリックします。

このレポートレットは2つのメトリックをサポートします。

単純な棒グラフと折れ線グラフ

次の値を使用して、選択した時間範囲におけるNPSプロセスのパフォーマンスのトレンドを表示します。

- 棒グラフ上の**プライマリメトリック**²
- 線グラフ上の**セカンダリメトリック**³

次の作業を実行できます。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

²レポートを生成する対象の主要メトリックを選択できます。選択したプライマリメトリックは、レポートの左側のY軸上に表示されます。

³プライマリメトリックに重ね合わせるメトリックを選択できます。選択したセカンダリメトリックは、レポートの右側のY軸上に表示されます。

- 複数のメトリックのパフォーマンストレンドを比較する。
- プライマリメトリックの値の増減に応じてセカンダリメトリックの値がどのように増減するかを分析する。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、Y1 軸のメトリックを選択する場合は [Y1 に送信] をクリックします。Y2 軸のメトリックを選択する場合は [Y2 に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットは2つのメトリックをサポートします。

単純なグラフ

選択したメトリックの選択時間範囲における使用率トレンドを分析します。

次の作業を実行できます。

- 表示粒度ごとに選択したメトリックの比較分析を実行する。デフォルトの表示粒度は1時間です。
- NPSプロセスパフォーマンスの向上および悪化の理由を分析する。
- NPSプロセスパフォーマンスに影響を与える継続的な問題を検出する。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、Y1 軸のメトリックを選択する場合は **[Y1 に送信]** をクリックします。Y2 軸のメトリックを選択する場合は **[Y2 に送信]** をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには **[説明の表示]** をクリックします。

このレポートレットは2つのメトリックをサポートします。

単純なテーブル

選択したメトリックの選択時間範囲における使用率トレンドを分析します。

デフォルトの表示粒度は1時間です。

次の作業を実行できます。

- メトリックの毎時のパフォーマンスを分析する。
- 異常または予期しないNPSプロセスパフォーマンスを検出する。
- プライマリメトリックの値の増減に応じてセカンダリメトリックの値がどのように増減するかを分析する。

[オプションの設定/解除] をクリックすると **[レポートオプション]** ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を **[検索]** ボックスに入力します。

タグ²を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、Y1 軸のメトリックを選択する場合は **[Y1 に送信]** をクリックします。Y2 軸のメトリックを選択する場合は **[Y2 に送信]** をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには **[説明の表示]** をクリックします。

このレポートレットは2つのメトリックをサポートします。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

²タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

スパーク線

選択した時間範囲におけるメトリック値の変化のトレンドを評価します。

次の作業を実行できます。

- 選択したメトリックのパフォーマンスの変動を分析する。
- 選択したメトリックの期待される動作を再評価するかどうかを決定します。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットは1つのメトリックをサポートします。

上位Nチャート

選択した時間範囲におけるNPSプロセスのパフォーマンスに対する、各メトリックの個々の貢献度をランク付けします。

NPSプロセスのパフォーマンスは1時間ごとに集約されます。

次の作業を実行できます。

- パフォーマンスメトリックが極端な値を示しているNPSプロセスを見分ける。
- 使用率のレベルが異常なNPSプロセスの集約データを調査する。
- レポート生成の対象とするメトリックを選択します。選択したメトリックはNPSプロセスのランク付けに使用されます。
- 特定のパラメーターに基づいてレポートデータをグループ化する。サブグループを追加するには、 [グループの追加] ボタンをクリックします。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットで使用できるメトリックは1つのみです。

上位N折れ線グラフ

選択したメトリックの選択時間範囲における使用率トレンドをランク付けします。

NPSプロセスのパフォーマンスは1時間ごとに集約されます。

次の作業を実行できます。

- パフォーマンスメトリックが極端な値を示しているNPSプロセスを見分ける。
- 使用率のレベルが異常なNPSプロセスの集約データを調査する。
- レポート生成の対象とするメトリックを選択します。選択したメトリックはNPSプロセスのランク付けに使用されます。
- 特定のパラメーターに基づいてレポートデータをグループ化する。サブグループを追加するには、 [グループの追加] ボタンをクリックします。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットで使用できるメトリックは1つのみです。

上位N積み上げグラフ

選択したメトリックに基づいて、各NPSプロセスの個々の貢献度をランク付けします。

各NPSプロセスのパフォーマンスは、デフォルトの表示粒度である1時間で集約されます。

次の作業を実行できます。

- パフォーマンスメトリックが極端な値を示しているNPSプロセスを見分ける。
- 使用率のレベルが異常なNPSプロセスの集約データを調査する。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ²を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットで使用できるメトリックは1つのみです。

上位Nテーブル

選択したメトリックに基づいてNPSプロセスをランク付けします。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

²タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

次の作業を実行できます。

- パフォーマンスメトリックが極端な値を示しているNPSプロセスを見分ける。
- 使用率のレベルが異常なNPSプロセスの集約データを調査する。
- レポート生成の対象とするメトリックを選択します。選択したメトリックはNPSプロセスのランク付けに使用されます。
- 特定のパラメーターに基づいてレポートデータをグループ化する。サブグループを追加するには、 [グループの追加] ボタンをクリックします。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットで使用できるメトリックは1つのみです。

棒グラフ付き上位Nテーブル

選択したメトリックに基づいてNPSプロセスをランク付けし、集約されたメトリック値を表す水平バーを表示します。

次の作業を実行できます。

- パフォーマンスメトリックが極端な値を示しているNPSプロセスを見分けます。
- 使用率のレベルが異常なNPSプロセスの集約データを調査します。
- レポート生成の対象とするメトリックを選択します。選択したメトリックはNPSプロセスのランク付けに使用されます。
- 特定のパラメーターに基づいてレポートデータをグループ化する。サブグループを追加するには、 [グループの追加] ボタンをクリックします。

[オプションの設定/解除] をクリックすると [レポートオプション] ペインが表示されます。

[レポートオプション] ペインには拡張パックによって提供されたすべてのメトリックの一覧が、整理された表の形で示されます。ここから、必要なメトリックを選択したりそのメトリックのレポートを作成することができます。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

メトリックを選択するには、以下の手順を実行します。

1. メトリック選択リストでメトリックを右クリックします。

ヒント: 検索機能を使用して任意のメトリックを見つけることができます。メトリックを検索するには、メトリック名を [検索] ボックスに入力します。

タグ¹を使用して検索を絞り込むことも可能です。タグを使用するには、[タグ] ボックスの内側をクリックして、任意のタグを選択します。

2. コンテキストメニューで、レポートについてこのメトリックを選択する場合は[Y1に送信] をクリックします。

ヒント: メトリックの定義を確認するには [説明の表示] をクリックします。

このレポートレットで使用できるメトリックは1つのみです。

¹タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

用語集

A

ACK

肯定応答:送信されたメッセージが破損することなく、エラーも発生せずに受信されたこと、および受信ステーションが転送内容を受け入れられる状態になっていることを示すために使用される転送制御文字です。受信ステーションはこのコードを送り主に送信して、転送内容を受け入れたことを示します。

B

BECN

逆方向明示的輻輳通知 (BECN):BECNビットは、フレームリレーのフレームヘッダーのアドレスフィールドの一部です。DCEデバイスは、FECNビットセットでフレームの反対方向に送られるフレームについて、BECNビットの値を1に設定します。これにより、受信DTEデバイスに、ネットワークを通る特定のパスが輻輳状態であるという通知が行われます。DTEデバイスはこの情報をより高い層の処理を行うためのプロトコルにリレーします。実装によって、より高い層のプロトコルはフロー制御を開始したり表示を無視することが可能です。

F

FCS

フレームチェックシーケンス:各PPPパケットには、チェックサムが添付していて、受信しているデータが送信されているデータであることを確認します。着信パケットのFCS

が正しくない場合、そのパケットはドロップされ、FCSエラー数が加算されます。

FECN

順方向明示的輻輳通知 (FECN):FECNビットは、フレームリレーのフレームヘッダーのアドレスフィールドの一部です。FECNのメカニズムは、DTEデバイスがフレームリレーのフレームをネットワークに送信するとき起動します。ネットワークが輻輳状態の場合、DCEデバイス(スイッチ)はフレームのFECNビットの値を1に設定します。フレームが送信先DTEデバイスに到達すると、(FECNビットが設定された)アドレスフィールドで、送信元から送信先にいたるパス内でフレームが輻輳状態にあることを示します。DTEデバイスはこの情報をより高い層の処理を行うためのプロトコルにリレーします。実装によって、より高い層のプロトコルはフロー制御を起動または表示を無視することが可能になります。

ifAdminStatus

NNMiでの管理状態:現在のMIB II ifAdminStatusの値(デバイスの管理者によって設定された値)またはState Pollerサービスによって計算された値を表します。現在の管理状態は、このインタフェースでのステータス計算に影響を与えます。

ifOperStatus

NNMiでの運用状態:現在のMIB II ifOperStatusの値またはState Pollerサービスによって計算された値を表します。現在の運用状態は、このインタフェースでのステータス計算に影響を与えます。

R

RTS

送信要求:ワイヤレスネットワークへのアクセスを求めているデバイスから送信されたメッセージです。

S

sysUpTime

NNMiはシステムの再起動を検出するのにsysUptimeを使用します。システムの再起動が検出されると、NNMiはsysUpTimeの値を常にゼロにリセットします。

グ

グループ化

特定のパラメーターに基づいてレポートデータを整理します。新規グループを追加するには[新しいグループ化を追加]アイコンをクリックします。

グループ化 (期間別)

特定の時間粒度に基づいてレポートデータをグループ化できます。新規グループを追加するには[新しいグループ化を追加]アイコンをクリックします。

し

しきい値の例外

しきい値の例外率メトリックは、オブジェクトにしきい値例外が発生した時間のパーセンテージを示します。

セ

セカンダリメトリック

プライマリメトリックに重ね合わせるメトリックを選択できます。選択したセカンダリメトリックは、レポートの右側のY軸上に表示されます。

そ

その他

上位Nレポートで、レポートによってランク付けされていない要素はまとめてグループ化され、「その他」行で表示されます。

タ

タグ

タグは集計タイプまたはドメイン固有のグループを表すキーワードです。

ト

トポロジ属性

トポロジ属性は、ネットワーク要素の属性で、要素のタイプ、場所、またはその他の識別のための特徴に関する情報を提供するものです。特定のトポロジ属性 (デバイスの場所、サイト、デバイスのUUIDなど) でNPSレポートをフィルタリングして、関心のある要素に絞り込んで分析を行うことができます。

バ

バケット

バケットは値の範囲を表します。上位N頻度分布レポートによって、メトリックシリーズに対してバケット0 (Bkt0) からバケット11

(Bkt11) までの12の異なるバケット (または値の範囲) を定義可能になります。各バケットは、(設定済みで変更不能の) カラーコードと関連付けられています。生成されたレポートは異なる値の範囲の分布を、バケットに関連付けられているカラーコードで表します。

バックプレーン使用率

バックプレーンは、情報をポートに渡すスイッチの内部通信チャンネルです。バックプレーン使用率は、スイッチポート間を移動するトラフィックによって使用されている、チャンネルの利用可能な帯域幅の量です。バックプレーン使用率によって、ポートセグメントのトラフィック量がどの点に達するとパフォーマンスの低下を生じるのかを判別しやすくなります。

プ

プライマリメトリック

レポートを生成する対象の主要メトリックを選択できます。選択したプライマリメトリックは、レポートの左側のY軸上に表示されます。

ベ

ベースラインの例外

ベースラインの例外率メトリックは、オブジェクトにベースライン例外が発生した時間のパーセンテージを示します。

メ

メトリックの選択

レポート生成の対象とするメトリックを選択します。

全

全体例外率

全体例外率は、選択した時間範囲内で、オブジェクトにしきい値例外、ベースライン例外、あるいはこれら両方が発生した時間のパーセンテージを示します。

上

上位/下位N

選択したコンポーネントに対して、上位または下位の5件、10件、25件、50件、100件、すべてを降順、すべてを昇順の中から、ランク付けを1つ選択します。

時

時系列チャートの表示

表と一緒に詳細チャートを表示するには [はい] を選択します。チャートを非表示にして表のみを表示するには [いいえ] を選択します。作成した上位Nレポートには、選択した時間範囲におけるコンポーネントのメトリック値がグラフ表示されます。

